

編集後記

長かったコロナ禍での日々が、ようやく終息を迎えつつある 2023 年の春 3 月にこの紀要を発行できることはこの上ない喜びです。2020 年度からこの 2022 年度まで、新型コロナウイルスの猛威の下、授業はオンライン、対面、そしてこの 2 つを併用するハイブリッドなど多様な方策を取り、試行錯誤の日々でした。そのような困難な環境下でも、本学教員は研究を継続し、毎号、研究紀要の充実に努めてきました。そして、今回の第 20 号においては、11 の玉稿をお寄せいただきました。

大学は、教育と研究の府であり、教員の研究により培われた英知が学生への教育の質的向上につながると考えます。しかし、近年は学会も中止やリモートと変則的となり、研究や交流が思うように進められず、研究方法にも創意工夫が必要となりました。直接の交流でこそ生まれる着想もあるでしょうが、時間的・空間的な制約を日進月歩の IT デバイスを駆使して乗り越えて来たと言えます。そして、何より先生方の熱意で、この紀要は投稿本数を伸ばしてきています。

本学は、大学の規模が比較的小さく、教員一人ひとりの校務分掌の負担は少なくないので、研究や執筆に割く時間を捻り出す必要があります。しかしながら、研究の重要性を鑑みて、そのような諸制度を見直して改善の方向に向かうことでしょうか。次年度に向けては、査読のプロセスの見直しをいっそう進め、制約が低減される環境の下で研究の質・量ともにさらに飛躍することが期待されます。

最後に、論文執筆、査読、紀要編集にご尽力いただいた皆さまに深く感謝申し上げ、世界情勢が好転することを念じつつ、皆さまに平和で充実した日常が訪れることを願ってやみません。

清泉女学院大学 人間学部
紀要編集委員会
室井美稚子